

一月の行事

1	水	元旦 神の母聖マリアの祝日
2	木	
3	金	
4	土	
5	日	
6	月	仕事始め 高校入試個別相談会
7	火	高校入試個別相談会
8	水	始業式 二・三限・清掃・LHR 四限く授業
9	木	
10	金	
11	土	父母の会定例会⑤ リーダー研修 第68期卒業生成人式祝福御ミサ・茶話会
12	日	入試体験会
13	月	成人の日
14	火	宗教研究会⑨
15	水	高校推薦入試願書受付(く16日)
16	木	高一模試 高三単位追認試験①
17	金	漢字検定試験(40分授業) 第五支部生活指導部会
18	土	センター試験 高校内進生学校生活説明会
19	日	センター試験
20	月	
21	火	福者ラウラ・ビクーニャの祝日 宗教研究会⑩
22	水	高校推薦入試
23	木	
24	金	第三回英語検定試験(二次)
25	土	中一保護者会(三・四限) 高一長崎研修説明会(生徒・保護者)
26	日	英検会場提供③ 北辰会場提供④
27	月	
28	火	宗教研究会⑪
29	水	
30	木	高二模試
31	金	聖ドン・ボスコの祝日 入試準備(部活動なし)

二月の主な行事予定

- 1日 中学入学試験(第一回午前・第二回午後)
- 2日 中学入学試験(第三回午前・第四回午後)
- 3日 振替休日(2日)
- 4日 中学入学試験(第五回午前・第六回午後)
- 8日 中二保護者会(三・四限)
- 10日 高校入学試験 制服採寸(新中一・高校推薦合格者)
- 13日 マラソン大会(雨天順延14日)
- 15日 新中一学校生活説明会 数学技能検定③  
マルタ島語学研修説明会
- 18日 校内マラソン記録会
- 23日 第三回英語検定試験(二次)
- 28日 高三卒業ミサ(一・二限:高一・高二) 卒業式練習(三限:高一く高三 四限:高二)

「新大学入試制度」への本校の対応

柴田 洋平

十二月十七日、文部科学省から「大学入学共通テスト(以下新テスト)」における国語と数学の記述式問題の導入見送りが表明されました。新テストを巡っては、英語の民間試験の導入が見送られたことは記憶に新しいのではないのでしょうか。政治と行政に振り回される受験生並びに保護者の方の心中をお察しします。二転三転する大学入試改革に我々はどうか対応すればよいのでしょうか。僭越ながらこの場をお借りして、「新しい教育改革の概要」「新大学入試制度に対する星美学園の取り組み」「在校生がすべきこと」の順に述べていきたいと思います。

まず、現高校二年生が直面している新入試ですが、その根幹にあるのは新入試で問われる学力の三要素です。それは、従来の入試でも必要とされた、学習の土台である「知識・技能」、課題に対して自ら考えて判断し、他者に伝える力である「思考力・判断力・表現力」、様々な立場の意見をまとめ、課題解決に向けて進む姿勢である「主体性・多様性・協働性」の三つから構成されています。要するに従来の知識の量を確認する試験ではなく、知識を使って考え、意見を述べる力を問う入試へと変わっていくのです。その一環としてセンター試験に代わり導入されるのが新テストです。センター試験では基礎的な知識や技能の計測が中心でしたが、新テストではそれらに加えて思考力・判断力が問われます。例えば世界史の場合、センター試験でも初見の資料は利用されましたが、解答に影響しないものがほとんどでした。ところが、新テストでは提示される資料の量が格段に増え、その読解が求められるようになっていくのです。つまり、今回の新テストにおける導入延期・見送りの発表があっても、新しい教育改革の方向性は変わることなく、既に実施されている国立大学の二次試験や私立大学の入試で更に拡大されていくと予想されます。

それでは、新入試を乗り越えるために必要な学力の三要素は、どのようにして培えるのでしょうか。星美学園では主に「A型授業の導入」と「ポートフォリオの蓄積」によって対応しています。初めにA型授業ですが、主体性や協働性はグループで討論し、協力し合う経験を積み重ねてこそ身に付く力です。そこで、授業の中でグループワークやディベートなどを積極的に取り入れることで、生徒が他者と協力して能動的に学べる環境を提供しています。次にポートフォリオの蓄積ですが、これは生徒が日々の経験と気づきを記録し、貯めていくことを指します。昨今は入試形態の多様化が進み、大学入学者の半数近くが推薦・AO入試で入学しています。そのため、多くの経験を積み重ね、記録すること無くしてはそれらの入試に太刀打ちできません。ポートフォリオは大学入試のみならず、生徒にとっても自分の経験を客観的に把握することで新たな課題を見つけ、次の経験に繋げることができる利点があります。現高校一・二年生には毎月数回の提出が義務付けられており、生徒は試行錯誤しながら日々記録を行っています。

最後に、在校生がすべきことについて自身の見解を述べて締めくくりたいと思います。まず、確かな学力を身につけること。入試制度は変われど、求められている知識はこれまでと大きく変わりません。中高六年間で学習した内容を確実に定着させて下さい。次に、多様な経験を積み重ねること。これからの入試は学力だけでなく、様々な観点から評価されます。何事にも積極的に取り組んで、中高六年間を充実させて下さい。そして最後に、中高六年間を通じて自分が本当にやりたいことを見つけして下さい。教職員一同、新入試に対応すべく、引き続きサポートして参ります。